

平成23年度 栄川中学校 学校経営の基本構想

22年度を振り返って

職員

- 研究発表会を生かした学校運営が効果を上げた。
- 学校経営目標「学び合い やり抜く 栄中生」に向かって生徒の4, 5→88, 71, 68% をどう捉えるか。
- 研修に力を入れることが授業力・ひいては学校の目指す姿になる。
- 生徒指導・個に応じた指導 一人一人を大切にしたい指導が展開されている。まさに小規模校ならではの対応だと判断する。
- △学校の様子をもっと家庭に知らせる必要がある。

生徒

- 学校は楽しい・・・ 97, 98, 91%
94, 98, 83%(7月調査)
87, 69%(21年度)
- 温かい思いやりのある生徒は91, 97, 83%
良い人間関係・・・・・・・・97, 95, 95%
あいさつ・・・・・・・・94, 87, 80%
- △家庭学習は時間を決めてしっかりやっている・・・どの学年もまだまだである。
- △基本的な生活習慣
- ◇相談できる教師を必要としている。教師とのかかわりを持ちたがっている。

保護者

- ◇学校のことを知りたい。先生とも話したい。勉強ができるようになってもらいたい。

地域

- 地域でも学校でも生活態度が同じような傾向である。
- 学校日よりなどもよく読み、関心が高い。
- △学校の内部、授業の様子などももっと知りたい。

子供達は、将来の社会を担う大切な人材である。本校の子供達は、素直で真面目な子どもたちが多く、小規模の同一集団で生活をしているため、互いによく知り合っており、一貫研修で目指してきた成果も現れているが、目の前の教師の努力が大きいことは確かである。素直で優しい子どもたちではあるが、馴れ合い・マンネリなどにつながることも否めない。22年度は、研究発表会という大きなチャンスをいただいたおかげで、自信を持って授業に取り組むことができるようになってきた。生徒も教師も力がついたと言えよう。教師の良き指導、積極的な働きかけによって、かなり向上してきたこととして、部活動への取り組み・各大会・ボランティアなどの参加もあげることができる。

しかしまだまだ力をつけてあげなければならないことはたくさんある。ひとりひとりを見ていくと、自分の考えを主張したり、自分で考え判断したり、解決したりする力に弱さが見え、主体性の欠如が見られる。また、地道に最後までねばり強くやるなどの忍耐力にも課題が見られる。

22年度は、「就職難」「政治不信」「経済低迷」など社会生活をしていく上で根幹になる分野での不安が蔓延していた。不況の煽りを受けている保護者もたくさんいる。しかし、子どもたちは呑気に情報に溺れている状態である。年単位ではなく月単位で情報が入りかわり、急激に変化する社会の中で子供達や私達大人は生きている。その時、どうやって乗り越えたり、対応したりすることができるか、そんな力をつけてあげることが私たちの仕事である。

私が変わらず持ち続けている考え方は、「生きにくい時代であろうとなかろうと、子供達には自分を見失わず、信念を持ち、夢を持ち、希望を持ち、心豊かにたくましく、自分の人生を創造的に切り拓いてほしい」ということである。

また、次代を担うリーダーとしての資質をしっかり身に付け、将来立派に自立し、人のために役立ち、命をつないでほしいと思う。子供達は、将来の社会を担う大切な人材である。子供達を学校・家庭・地域の宝と考え、子供一人一人をやさしく厳しく育て、人間としてたくましく生きていく力を身に付け、育む教育をしなければならないと考える。

中学校教育は、人間教育の基礎基本を培う義務教育最終の3年間を担う。15歳。元服の意味をいつも持っていたいと思う。それには、常に新しい教育の方向性を追求しながらも不易なものを尊重し、子供一人一人に人間として生きる力を身に付け、自立した、人の痛みが分かり心優しい頼もしい人を育てる教育を推進しなければならない。そのため、子供一人一人が毎日はずみを持って登校できるように、魅力いっぱいの学校を目指したい。

また、教育活動の中で豊かな体験の場を設定し、さまざまな体験をさせ、価値付けることで、自信と希望とこころざしを持たせたい。この体験・価値付け・自信・希望を繰り返すことで、子供達は課題をつかみ、めあて・目標を持ち、努力して課題を解決し、こころざしを持ってたくましく生きる力を身に付けると考える。

私達職員は、公教育に携わる者としての職責の重みを十分に自覚し、己に厳しく、常に自己研鑽に励み、切磋琢磨して、全職員が一丸となって、百三十数年の間に育まれた不易の教育価値を引き継ぎ、流行の教育課程を融合させ、校風の樹立と発展、並びに教育課題の解決に向けて一層努力し、保護者をはじめ地域住民の期待に応えなくてはならない。

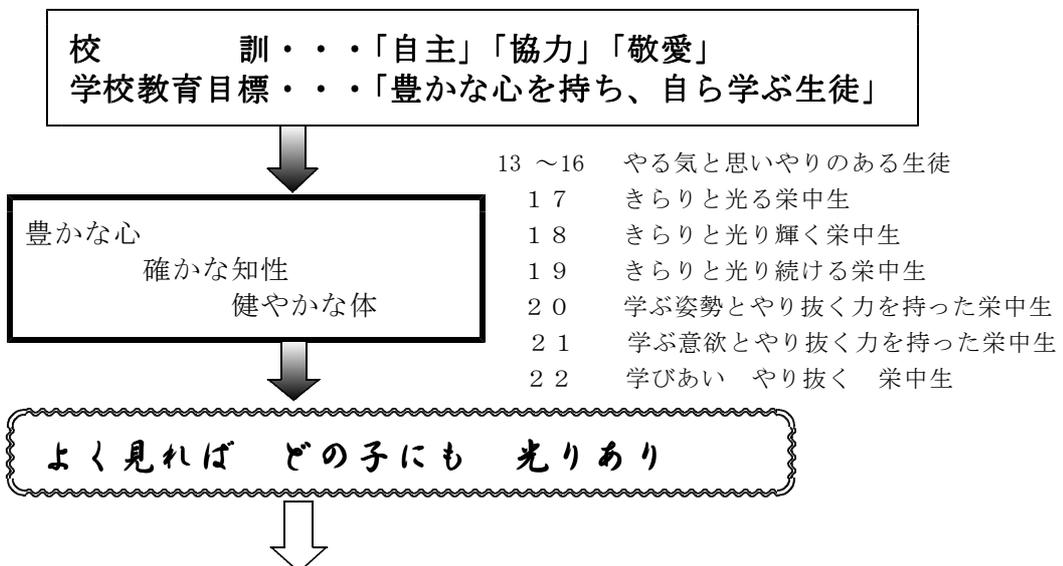
具体的には、本校の課題を明確にし、人間尊重の教育を基盤に据え、学習指導要領、静岡県の教育行政の基本方針並びに静西教育事務所の基本方針と掛川市学校教育の基本方針を踏まえ、生涯にわたっての「生きる力」や「こころざしを持ち、精神面・生活面で自立し、思いやりの心を持った、「有徳の人」づくりを目指す。

ライフステージに応じた学びを支える「縦の接続」と、家庭、学校、地域、職場等が互いに学びを支えあう「横の連携」で育む。生徒が生涯学習社会に生きる力を身につける。

「心の教育」を基本に据えた「豊かな感性、確かな知性、健やかな心身」の推進を通して、知・心・体の調和がとれ、思いやりの心を持った人間性豊かな子供の育成を通して人格の完成に努める。そのために、子供一人一人を学校の主人公と考え、教育諸活動を教職員・保護者・地域住民が一体となって進められるよう、より地域に根ざした開かれた学校づくりに努める。

厳しく、明るく、楽しく、思いやりにあふれ、魅力いっぱいの学校で育てていきたいと考える。

- 目指す学校像 ———— 魅力いっぱいの学校
- ・ どの子ども学校が大好きで元気に登校してくる、厳しさがあふれ、学ぶ楽しさあふれる魅力のある学校
 - ・ 思いやりがあふれ、夢と希望と感動のある学校
 - ・ 人権を尊重する学校
 - ・ 子供を自慢できる学校
 - ・ 知・徳（心）・体をバランスよく育て、高い教養を身に付けさせてくれる学校
 - ・ 家庭や地域から信頼され支えられている開かれた学校
 - ・ 職員一人一人が教職に対する使命感を持ち、勢いがあり、課題を意識して常に改革改善を心掛け、工夫し、互いに切磋琢磨し啓発し合う学校



23年度重点目標

学び合い やり抜く 栄中生

の育成

1 学校経営の基本方針

(1) 「自立」させる教育を推進する。

義務教育最終の3年間であることを幼小中一貫教育の視点から捉え、「学びあい やり抜く力」を持った、知育・徳育・体育のバランスのとれた生徒を育成する。

(2) 魅力いっぱいの学校をつくる。

子供が毎日はずみを持って登校できるように、魅力いっぱいの学校を目指す。
「学校が楽しい」という生徒が100%になる学校をつくる。

(3) 勢いのある教職員

教職員一人一人が生徒指導力を持ち、経営目標具現化に向けた、具体的且つ積極的な取組をする。

2 学校経営目標…「**学び合い やり抜く 栄中生**」の育成

(重点目標) …「**学び合い やり抜く 栄中生**」

3 経営目標具現化の手だて

栄川中学校の教育

校訓・・・「**自主**」「**協力**」「**敬愛**」
学校教育目標・・・「**豊かな心を持ち、自ら学ぶ生徒**」

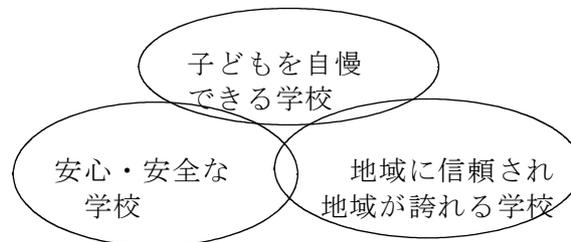


23年度重点目標

学び合い やり抜く 栄中生

の育成

【目指す学校像】



【目指す生徒像】

意欲的に学ぶ生徒

知

心豊かな生徒

徳

健康でたくましい生徒

体

【目指す教師像】



教育の夢を語る教師



子どもを語る教師



教科のプロとしての誇りを持って教える教師

学校は、『学力をつける』『心身を鍛える』『人と心を結ぶ』ところ！！

(1) 『学力をつける』

- ① 確かな学力の育成と基礎基本の定着を図る。(知)
 - ・研修の日常化、授業力・生徒指導力の向上
 - ・「授業ですべてを教え育てる」の実践
 - ・確かな学力 基礎・基本の定着 学習意欲の高揚
 - ・体験 チャレンジの機会
- ② 全ての教科において、「じっくり考え、表現できる子」を育てる。
- ③ 魅力ある授業「わかる喜び」「できる喜び」の達成感が沸くような授業展開をするために、はっきりとした指示やポイントを押さえたわかりやすい板書などに心掛ける。
- ④ 学習の定着を図るために、「授業→家庭学習（復習→予習）→授業」の流れを習慣化させ、課題を持って授業に臨めるよう、教科指導の中でねばり強く取り組む。
- ⑤ 復習、予習、課題等の家庭学習の仕方についてきちっと指導し、見届け等を確実に行う。
- ⑥ 学ぶ意欲、豊かな心情を育てるために読書指導を推進する。
- ⑦ 日常の学級生活の中で学びを刺激する学習環境をつくる。
 - ・校内図書館を更に充実させる（入りたくなる、見たくなる図書館、図書館掲示）

(2) 『人と心を結ぶ』

- ① 人間尊重の教育の推進を図る。(心)
 - ・「人権基盤に学級づくり、授業で感動伝えよう」の実践（人権の尊重）
 - ・人の痛みが分かる、思いやりの心、違いを受け入れる、特別支援教育（生徒理解）
- ② 豊かな体験を通して、自信と希望と夢を持ち、たくましく生きる力を育む。(心)
 - ・自立した、人の痛みが分かり心優しく頼もしい人の育成
- ③ 道徳教育の充実
 - ・基本的生活 規範意識 マナー 言葉遣い
 - ・道徳授業の充実に努め、ステージのねらい等に合った効果的な内容を計画し実践する。
e x. 全校道徳・ようこそ先輩・担任外の道徳授業

(3) 『心身を鍛える』『やり抜く力』

- ① 長期的目標を職員と生徒が共有する中で、各ステージ毎の個々の短期目標を明確にし、実現に向けてねばり強く取り組む。PDCA
- ② キャリア教育、ボランティア活動、地域活動などの社会体験を積む中で、自己の職業観や進路に対する関心意欲を高めると共に、やり抜く力をつける。
 - ・目標を持たせる。 ・豊かな体験をさせ、価値付ける
- ③ 積極的な生徒会活動によって自治能力と活動の質を高め、真のリーダーを育てる。
- ④ 縦集団活動（学校行事・部活動等）を通して、望ましい人間関係の中で一丸となった粘りのある活動ができるようにする。
- ⑤ 健やかな体
 - ・好ましい生活習慣 ・食育 ・安全指導
- ⑥ 部活動の充実 とことんやり抜く 「苦しさ」ではなく「充実した」と感じる部活動
- ⑦ 特別支援の必要な生徒に対して対応できる力をつける。(愛情、根気、工夫)
 - ➡ ひとりひとりをよく見る。生徒指導。学級作り。

(4) 「学校をひらく」「地域から信頼される」ために

- ① 開かれた学校を目指す。(学校・家庭・地域連携)
 - ・地域力のインプット、学校力のアウトプット相乗効果を発揮
 - ・家庭・地域との目標の一体化と指導、学校評議員会継続、
 - ・幼小中一貫教育の取組を地域にひらくことにより理解と協力を得る。一貫研の進化・実践
 - ・お便り、メール、ホームページ等を駆使し、学校の様子をできるだけリアルタイムで発信する。
 - ・外部評価システムを充実させ、情報の受信を積極的に行う。
- ② 子供、保護者、地域から信頼される頼もしい教職員を目指す。
 - ・責任と誇り、子供と真剣に向き合う、創意工夫、創造性、鍛え磨き合う。
 - ・信用失墜行為の根絶、政治的中立の厳守
- ③ 社会状況、保護者、地域の現状を良く理解し、素早い対応と親身ある対応を心掛ける。

「生徒は12年間を見通して育てる」
という自覚を持ち、
本学区の特徴である幼小中一貫教育
を継続推進する。